

令和 8 年度(前期日程)

入学者選抜学力検査問題

国 語

(現代の国語・言語文化・論理国語・文学国語・古典探究)

試 験 時 間

1. 文学部, 教育学部, 法学部は 120 分

問 題 ページ

㊦～㊨…………… 1～11

2. 医学部(保健学科看護学専攻), 共創学環は 60 分

問 題 ページ

㊦～㊩…………… 1～7

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで, この冊子を開いてはいけません。
2. 各解答紙の 2 箇所に受験番号を必ず記入しなさい。
なお, 解答紙には, 必要事項以外は記入してはいけません。
3. 解答は, 必ず解答紙の指定された場所に記入しなさい。
4. 試験開始後, この冊子又は解答紙に落丁・乱丁及び印刷の不鮮明な箇所などがあれば, 手を挙げて監督者に知らせなさい。
5. この冊子の白紙と余白部分は, 適宜下書きに使用してもかまいません。
6. この冊子をとめている針金は, 解答時に取りはずしてもかまいません。
7. 試験終了後, 解答紙は持ち帰ってはいけません。
8. 試験終了後, この冊子は持ち帰りなさい。

※この冊子の中に解答紙が挟み込んであります。

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

(河野哲也)『教育哲学講義 子ども性への回帰と対話的教育』による

(注) インクルーシブ教育……人間の多様性を尊重し、障害のあるなしや国籍や人種、性差や経済状況の差別も関係なく、共に学び、共生社会の実現を目指すとする教育のこと。

問一 傍線部⑦から⑩の片仮名を漢字に直せ。

問二 空欄 A ・ B に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次から選び、

記号で答えよ。

- ア 〔 A 標準的 ・ B 健康的 〕
- イ 〔 A 固定的 ・ B 精神的 〕
- ウ 〔 A 弾力的 ・ B 身体的 〕
- エ 〔 A 硬直的 ・ B 生得的 〕

問三 傍線部①について、筆者がこのように述べる理由をわかりやすく説明せよ。

問四 傍線部②について、筆者はどのように考えているか。本文全体を踏まえて、わかりやすく説明せよ。

二

次の文章は、ある小説の一部である。小説中の矢代は、ヨーロッパ渡航で出会った千鶴子と交際している。しかし、クリシタン大名に先祖を滅ぼされた九州の一族の子孫という意識もあり、キリスト教のカトリック（カトリック）を信仰する千鶴子との関係に思いをめぐらせている。読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

(注) 西園寺家……………藤原北家閑院流の貴族・公家の一家。

大友宗麟……………戦国時代の武将・大名(一五三〇～一五八七)。キリシタン大名。

細川ガラシャ……………戦国時代の明智光秀の娘で細川忠興の妻であった女性(一五六三～一六〇〇)。

忠興……………細川忠興。戦国時代・江戸時代の武将・大名(一五六三～一六四六)。

久慈……………矢代の友人の男性。矢代とともにヨーロッパへ渡航し、千鶴子とも親しい人物。

高山右近……………戦国時代・江戸時代の武将・大名(一五五二～一六一五)。キリシタン大名。

天主でうす……………「天主」「でうす」ともにキリシタンが神を表すのに用いた言葉。

問五 傍線部について、なぜ矢代はそのような想像をするのか。矢代と千鶴子との関係を踏まえ、わかりやすく説明せよ。

問六 空欄 A・B に入る人名として、最も適切なものをそれぞれ選び、記号で答えよ。

ア 宗麟 イ 忠興 ウ 信長 エ 光秀 オ 秀吉 カ 右近

問七 文中で語られる矢代の千鶴子への心情について、矢代のカンリックに対する認識に言及した上で、わかりやすく説明せよ。

三

次の文章は、室町時代に作られたある物語の一部である。主人公の姫君は、春雨の日のうたた寝の夢のなかで美しい男と結ばれてからというものの、夢の逢瀬に恋い焦がれていた。ある日、石山寺に参籠した夜に、隣の部屋から男の話し声がするのを聞く。読んで、後の問に答えよ。

うちとけ給ふさまの、夢にかよひつる人に、すこしもたがはずおぼゆるにも、まづ胸騒ぎで、せちに見まほしきに、御ともの人々は、今日の道にいたくくつほれぬるにや、いといぎたなく^①て、大殿油も消えぬるに、となりなる火は、いとあかく見ゆるほど、物のひまよりやをらのぞき給へば、なよびかなる狩衣姿にやつれなし給へる。ただありし夢に、つゆもたがふ所なければ、これもまた例の思ひ寝にやと、かきへらひなる御心を、いたく念じて、聞き見給ふに、「大和、唐土は、夢をしるべにて、あるは傳蔵の野にかたちを求め、あるは明石の浦に舟をまうけ侍るためしは、みなたしかに、思ひ合はするつつもある事なるに、これは去年のやよひの末つかた、女のもとよりとおぼしめて、しなやかなる藤にむすびて、

たのめただ思ひ合はする思ひ寝の にかへる夢もこそあれ

とありしを見しより、宵々ごとの夢には、かなたに訪ひ、こなたに迎へて、連なる枝のかれぬ色をちかひ、ならぶ翼のわかぬ仲を思ひて、この二歳ばかりをすべし侍るに、朝廷に仕ふるも、わたくしにかへりみるも、折にふれたる月雪のなさけにも、ただこの夢の行方の、かた時のつつにも、思ひ合はするよすががなと、ひと心にかかるままに、なにごともし身に添はず。つつし心もなく、身もむげに弱くなりぬるを、とかく念じて、出る仕まつるになむと、うちくどき給ふより、ただ我が身の恋しかなしと思ふはかなき夢の契りをのみ、泣きみ笑ひみ、語り給ふを聞く心地、ただならむやは。これぞ見しや夢、ありしやうつつ、せむかたなきいまよひには、声もたてつづく、やがてこの障子をもひきあけて、よなよなの契りの行方をも、語り合はせまほしけれど、なすがに女のさるべき事にもあらぬは、^④うつつやうく忍びます。

(ゆみ)に『軒覆草紙』)

(注) くつほれ……………体力や気力が弱ること。

なよびかなる……………上品で優美なさま。

傳蔵の野にかたちを求め…『書経』説命篇の、殷の高宗が夢で会った賢者の肖像を描いて探させ、傳蔵の野で傳説を見つけ、宰相に立てた故事をいう。

明石の浦に舟をまうけ…………『源氏物語』明石巻で、明石の入道が夢のお告げにより、須磨に返去している光源氏を舟で迎えにきたことをいう。

連なる枝・ならぶ翼…………『長恨歌』の「連理の枝」と「比翼の鳥」を踏まえ、ともに男女の契りの深いことをこつ。

うつし心……………平常心。正気。

問八 傍線部①・②を現代語訳せよ。

問九 傍線部③について、姫君がこのような心情になった理由を、わかりやすく説明せよ。

問十 空欄に入るものとして最も適当な語を本文中から探し、答えよ。

問十一 「二重傍線部」なむ「と文法的に同じものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 今宵なむまことに恥づかしく、身も投げつべき心地する。

イ いつかその日にならなむといそぎおりありくも、いとをかじや。

ウ ゆくりもなへ、いさよふ月に誘はれ出でなむとぞ思ひなりぬる。

エ 人の世のはかなぎを知る知る、はるかにいなむといふは、親をいとふか。

問十二 傍線部④について、姫君の状況を、心情も含めてわかりやすく説明せよ。

四

次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし、返り点と送り仮名を一部省略してある。

荆^{けい}湘^{しやう}有^リ僧^ニ寺^ニ背^レ山^ヲ近^ク水^ニ、水^中有^レ竜^ニ。時^ニ或^{ある}雷^{イハ}風^{イニ}大作^{コリ}、損^ス壞^ス樹^木。寺^中有^リ撞^{たう}鐘^{しやう}張^老者^{ナル}、術^ニ士^也。而^ル僧^ニ不^レ知^ラ。張^老惡^ニ此^ノ竜^ノ損^ナ物^ヲ、欲^シ禁^ジ殺^{サント}之^ヲ、密^{ひそ}為^{カニ}法^ス。此^ノ竜^ヲ已^リ知^リ、化^{シテ}為^レ人^ト、潜^{ひそ}告^{カニ}僧^ニ曰^ク、
 「某^{われ}実^ハ竜^也。住^ト此^ニ水^ニ多^ク年^ニ。或^{イハ}因^{リテ}出^{ツル}、風^雨損^ナ物^ヲ。為^リ所^ト禁^{ズル}、性^命危^ナ急^{ナリ}。非^ニ和^尚救^ジ之^ヲ。不可^シ。倘^も救^ハ其^ノ命^ヲ、奉^リ一^ニ宝^珠、以^テ伸^ベ報^答。某^ハ即^チ移^{ラント}於^ニ別^処。僧^ニ諾^{ダク}之^ヲ。」
 夜^ヨ喚^よ張^老、求^ム積^ル之^ヲ。張^老曰^ク、「和^尚莫^ク受^ズ此^ノ竜^ノ獻^ル珠^否。此^ノ竜^ノ甚^ダ窮^{キハ}、唯^ダ有^ル此^ノ珠^一。性^又吝^リ惡^{クナリ}。今^シ若^シ受^ケ珠^ヲ、他^時悔^{ユル}無^レ及^ブ。僧^ニ不^ニ之^ノ信^ゼ、曰^ク、「君^ニ但^ダ為^レ我^ガ放^ル之^ヲ。」張^老不^レ得^レ已^ニ、乃^チ放^ス。竜夜^後送^リ珠^ヲ於^ニ潭^ニ水^一。張^老亦^タ辞^{シテ}僧^ニ去^ル。」

③ 後^ニ数^日、忽^チ大^イ雷^雨、壞^シ此^ノ僧^舎、奪^フ其^ノ珠^一。
 果^{シテ}如^シ張^老之^ノ言^一。

〔太平広記〕による

(注) 荆湘……………荆州と湘州のこと。あわせて現在の湖南省にある湖、洞庭湖一帯の地。

撞鐘……………寺院などの鐘をつくこと。ここではその役割の人。

禁……………存在や変化を禁じる術。

和尚……………僧に対する敬称。

尙……………もし。仮定の条件を表す。

報答……………恩に感じて感謝する。

吝悪……………意地汚い。

潭水……………水を深くたたえた淵。

問十三 傍線部ア①の読み仮名を、送り仮名も含めて平仮名で記せ。

問十四 傍線部①を現代語訳せよ。

問十五 傍線部②を書き下し文にすると、「和尚此の竜の珠を献するを受くる菓きや否や」となるが、これにしたがって原文に返り点を施せ。なお、送り仮名は付けなくてよい。

問十六 空欄 A・B に当てはまるものは何か。次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

ア 僧 イ 竜 ウ 張老

問十七 傍線部③はどついつのことか。本文全体を踏まえて、わかりやすく説明せよ。